

2020.10.9

災害リスク情報 <号外>

台風 14 号への備え

【要旨】

2020年10月8日17時現在、今後台風14号は本州に接近または上陸する見込みで、その北側の前線の活動も相まって、西日本から東日本の太平洋側の地域を中心に大雨、暴風、高潮のおそれがあります。

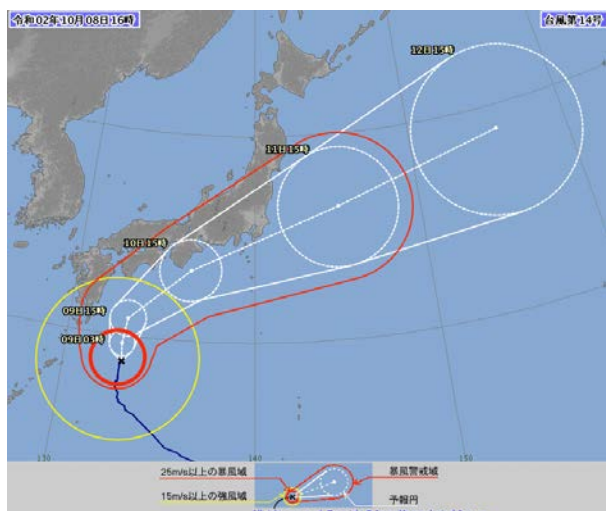
秋季の台風は、秋雨前線の活動を刺激するなどの要因から、所謂「雨台風」となることが多いと言われています。本稿では、台風による水災からの避難を対象として、至急備えて頂きたい事項についてまとめました。とりわけ台風が接近する地域のお客様におかれましては、本内容をお読み頂き、事前の備えおよびリアルタイムな情報の収集を実施頂きたくお願いいたします。

なお、本レポートは2020年10月8日17時時点の情報に基づいて作成しています。

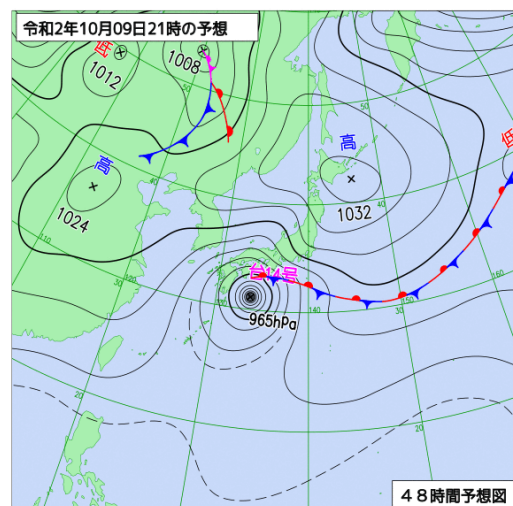
1. 今回の台風について

現時点で台風 14 号は、奄美大島の東を強い勢力で北に進んでいる。予報にはまだ幅があるが、今後 9 日から 10 日にかけて進路を東寄りに変え、その後本州に接近または上陸するおそれがある（図 1 参照）。図 2 をみると、台風の北側に前線がのびており、台風の接近前から広域で前線の影響を受ける可能性がある。今後、台風が接近・上陸するおそれのある 10 日から 11 日にかけて、西日本から東日本の太平洋側の地域を中心に大雨、暴風、高潮が発生する可能性がある。

一般に秋季における台風は、秋雨前線の活動を刺激するなどの要因から、関東地方に過去甚大な水害をもたらしたカスリン台風（1947 年 9 月）や狩野川台風（1958 年 9 月）に代表される様な「雨台風」となることが多いと言われる。次章で台風による水災からの避難を対象として、至急備えて頂きたい事項について記載する。



【図 1】台風 14 号の台風経路図（気象庁¹⁾）



【図 2】予想天気図（気象庁²⁾）

2. 避難への備えについて

ここでは台風が接近する前に、水災からの避難に向けて備えて頂きたいことについて示す。

(1) ハザードマップの確認と避難の検討

まず自治体などが公表するハザードマップを参考に、避難方法を検討する。例えば、国土交通省が公表している「重ねるハザードマップ」では、図3のとおり所在地の災害リスク（河川氾濫による浸水、土砂災害等）を確認することができる。「①所在地を入力」し、「②確認したい災害種別（洪水、土砂災害等）を選択」することで対象拠点周辺のリスクを把握できる。拠点に浸水リスクがある場合、想定されている浸水深により、鉛直避難（建物の二階以上への避難）か水平避難（建物からの立ち退き避難）かを検討し、水平避難が必要な場合は自治体が設置する避難所など**最適な避難先・避難経路の選定**をすることをお勧めする。なお土砂災害危険箇所や土砂災害警戒区域に該当する場合は、特に早めの水平避難が望まれる。



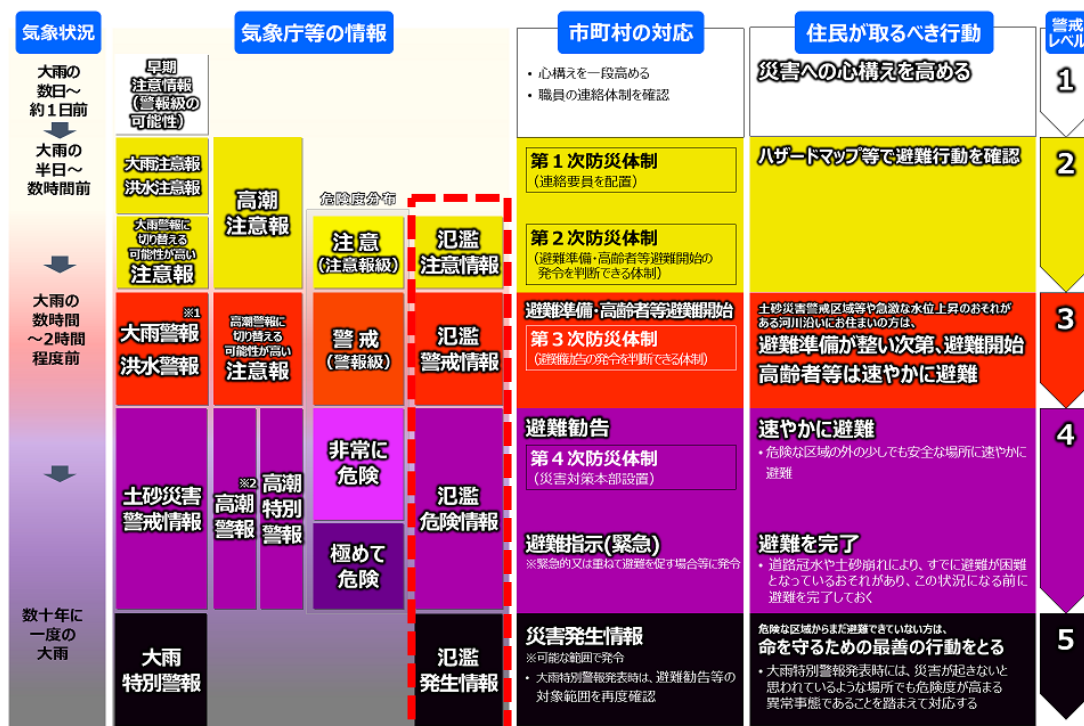
【図3】重ねるハザードマップ（国土交通省³⁾）における表示例
※弊社にて一部加筆、表示は洪水リスク（想定最大規模の浸水深）

コロナ禍の現状を鑑み、避難先の選定にあたっては、ハザードマップで確認できる避難所の他、親戚宅やホテルなど「**分散避難**」を念頭に置くことも重要となる。また、首相官邸では感染症対策のマスクなどもリストアップした非常用持ち出し袋のチェックリスト（図4）を公開している。こちらを参考に、あらためてご自身の**持ち出し品を確認**する事をお勧めする。

非常用持ち出し袋 避難の際に持ち出すもの！	
☐ 水 ☐ 食品 （ご飯（アルファ米など）、レトルト食品、ビスケット、チョコ、乾パンなど：最低3日分の用意!） ☐ 防災用ヘルメット・防災ずきん ☐ 衣類・下着 ☐ レインウェア ☐ 紐なしのズック靴 ☐ 懐中電灯（※手動充電式が便利） ☐ 携帯ラジオ（※手動充電式が便利） ☐ 予備電池・携帯充電器 ☐ マッチ・ろうそく ☐ 救急用品 （ばんそうこう、包帯、消毒液、常備薬など） ☐ 使い捨てカイロ ☐ ブランケット	☐ 軍手 ☐ 洗面用具 ☐ 歯ブラシ・歯磨き粉 ☐ タオル ☐ ペン・ノート 感染症対策にも有効です!! ☐ マスク ☐ 手指消毒用アルコール ☐ 石けん・ハンドソープ ☐ ウェットティッシュ ☐ 体温計 一緒に持ち出そう!! ☐ 貴重品 （通帳、現金、パスポート、運転免許証、病院の診察券、マイナンバーカードなど）

【図4】非常用持ち出し袋チェックリスト（首相官邸⁴⁾）※弊社にて一部加筆

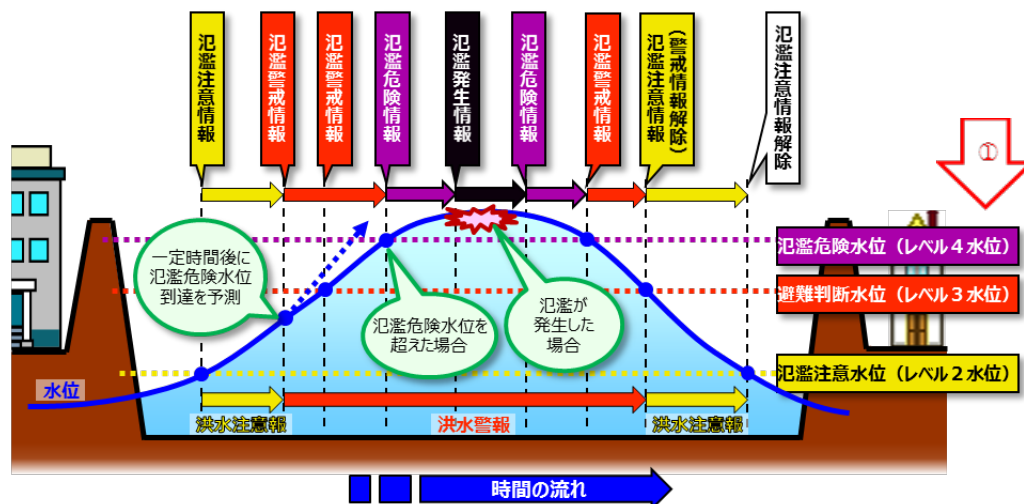
「号外令和2年台風10号への備え」(https://www.iriic.co.jp/pdf/risk_info/disaster/2020_sp04.pdf)でも述べたが避難をするタイミングとしては、図5に示す気象庁等の情報から、対応する警戒レベルに応じた行動を早め早めに行う事をお勧めする。



【図5】気象警報等が発表された際に命を守るためにとるべき行動の例（気象庁⁵⁾）

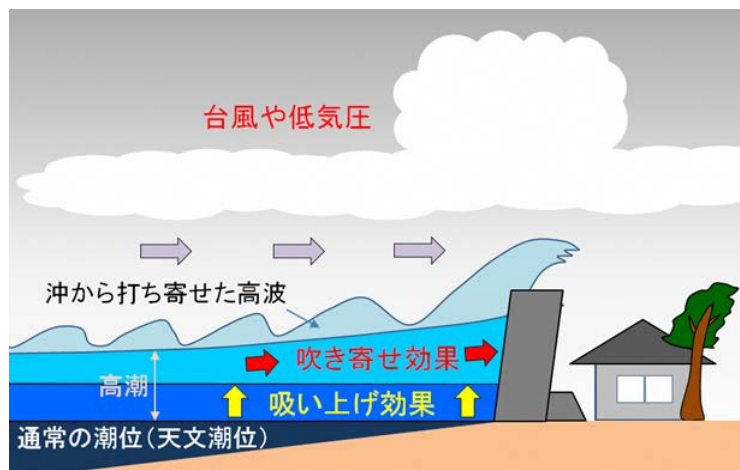
※弊社にて一部加筆

図5の赤枠は河川管理者（国土交通省あるいは都道府県）と気象庁が共同で発表する洪水予報であり、指定河川においてあらかじめ決められた4段階の水位（図6中①）に基づいて情報が発表される。図6に示すのはその概念図であるが、警戒レベル4（紫色:速やかに避難）となる氾濫危険情報が発せられる時点の水位は堤防の高さに差し掛かることから、その前段階である氾濫警戒情報（赤色）、つまりは警戒レベル3（図5内右側）までの避難が極めて重要であることが示唆される。また、土砂災害や高潮でも同様に警戒レベル3の段階で避難行動を具体化することがより安全である。

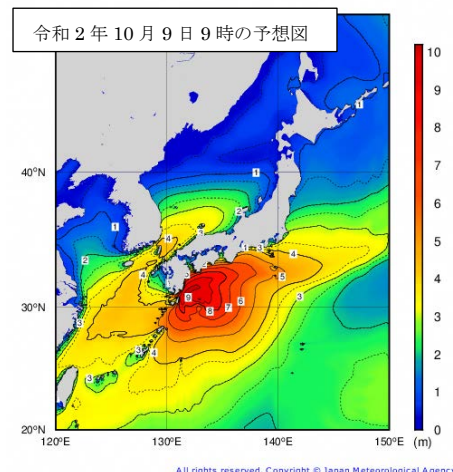


【図6】指定河川洪水予報の概念図（気象庁⁶⁾）

台風 14 号は、太平洋沿岸部を沿う形の進路が予報されていることから、沿岸部では波浪及び高波による被害が想定される。図 7 に高潮発生の概念図を図 8 に沿岸波浪予想図を示す。東日本においては、台風接近に伴い強まる南風の吹き寄せ効果による海面上昇で潮位が高くなり、沖から打ち寄せた高波による被害が考えられる。早めの避難を検討する事をお勧めする。



【図 7】高潮発生の概念図（気象庁⁷⁾）



【図 8】沿岸波浪予想図（気象庁⁸⁾）

※弊社にて一部加筆

（２）資産の安全対策や事業の停止

対象拠点付近で災害が発生する可能性が高いと判断される場合は、週末までの限られた時間ではあるが以下の対策を講じられたい。

① 窓や扉の閉鎖・施錠

風雨の室内への吹き込み、備品等の水濡れを防止するため扉や窓・シャッター等を確実に閉止する。

② 屋外品の撤収・養生

風に飛ばされる可能性のあるもの、水に流される可能性のあるものを可能な限り屋内に片付ける。収容が困難なものはブルーシートやロープ等で養生・固定する。

③ 建物の浸水防止

建物の出入口や地下入口等に土のうや水のう、止水板を設置して建物内への浸水を防ぐ。

④ 設備等の保護・電源停止

高価な機器類や重要書類等は可能な限り事業所内の高所に移動させる。移動が困難なものはビニールシート等で養生する。避難を行う前に、電気機器類は可能な限り電源を OFF にする。できればブレーカーを切ることが望ましい。

⑤ 重要取引先への連絡

営業の縮小、停止が必要な場合は、重要な取引先から順に連絡を入れる。納品の前倒しや延期などを早期に相談する。

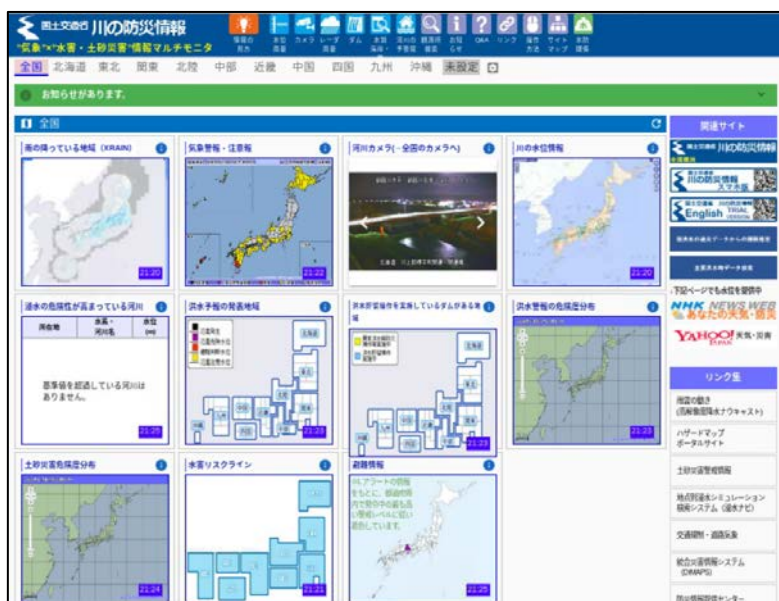
⑥ 出退社に関する連絡

従業員については早めの帰宅や出社の見送りを検討する。また、災害発生の可能性が高い状況では無理な帰宅や出社をしないよう呼びかける。

（３）最新情報の収集

「第 90 号 今夏の気象予報と梅雨前線への備え」(https://www.rric.co.jp/pdf/risk_info/disaster/90.pdf)で紹介した「川の防災情報」は、避難等に必要なりアルタイムな各種情報がまとめられている利便性の高

いツールである。事前に降雨地域の状況、気象警報・注意報の発令状況、河川の水位状況等の情報を確認し、台風の接近に合わせ、こまめにチェックすることをお勧めする。



【図9】川の防災情報トップ画面（国土交通省⁹⁾）

<https://www.river.go.jp/portal/#80>

3. まとめ

台風 14 号は本州への接近もしくは上陸の可能性があります、前線の活動も相まり本州の太平洋側を中心に災害発生のおそれがある。特に水災に対する備えとしては、ハザードマップの情報を踏まえた避難の検討（分散避難等）、非常用持ち出し袋や避難のタイミングの再確認をお勧めする。併せて、土のうや止水板の設置、重要な資産の高所への移動などの被害軽減対策を実施して頂きたい。気象状況は刻々と変化し、事前の予想を超える可能性は往々にしてあるため、こまめにリアルタイムな情報の収集に努めることも重要である。

リスクマネジメント第一部 災害リスクグループ
アシスタントマネジャー 井熊 佳祐
主任 小川 陽平
(気象予報士)

【参考】災害リスク情報バックナンバー（2013 年以降）

気象災害	災害リスク情報 バックナンバー
 大雨 ・ 水災	◆ 号外 九州地方及び中部地方の豪雨被害について https://www.iriic.co.jp/pdf/risk_info/disaster/2020_sp03.pdf ◆ 号外 九州南部の豪雨による被害について https://www.iriic.co.jp/pdf/risk_info/disaster/2020_sp02.pdf ◆ 第91号 複合災害への備え https://www.iriic.co.jp/pdf/risk_info/disaster/91.pdf ◆ 第90号 今夏の気象予報と梅雨前線への備え https://www.iriic.co.jp/pdf/risk_info/disaster/90.pdf ◆ 号外 企業の水害への備え https://www.iriic.co.jp/pdf/risk_info/disaster/2019_sp03.pdf ◆ 号外 豪雨災害に備える https://www.iriic.co.jp/risk_info/disaster/2019_sp02.php ◆ 第83号 平成30年7月豪雨による被害状況と企業の水害対策 https://www.iriic.co.jp/risk_info/disaster/83.php ◆ 号外 水害に関する防災情報の活用と企業の備え https://www.iriic.co.jp/pdf/risk_info/disaster/2018_sp02.pdf ◆ 第77号 2017年7月から改善される気象庁防災気象情報と企業の内水氾濫対策 https://www.iriic.co.jp/risk_info/disaster/77.php ◆ 第70号 近年の水災の傾向と企業に求められる対策 https://www.iriic.co.jp/risk_info/disaster/70.php ◆ 第59号 豪雨等による土砂災害の被害と対策 https://www.iriic.co.jp/risk_info/disaster/59.php
	◆ 号外 令和2年台風10号に対する企業の防災対策 https://www.iriic.co.jp/pdf/risk_info/disaster/2020_sp05.pdf ◆ 号外 令和2年台風10号への備え https://www.iriic.co.jp/pdf/risk_info/disaster/2020_sp04.pdf ◆ 号外 台風19号の被害から考察する事業所の水害対策 https://www.iriic.co.jp/pdf/risk_info/disaster/2019_sp06.pdf ◆ 号外 台風19号の被害について https://www.iriic.co.jp/pdf/risk_info/disaster/2019_sp05.pdf ◆ 号外 台風15号の被害概要と停電の影響 https://www.iriic.co.jp/pdf/risk_info/disaster/2019_sp04.pdf ◆ 号外 平成30年台風第21号の概要と高潮対策 https://www.iriic.co.jp/risk_info/disaster/2018_sp03.php ◆ 第72号 2016年8月、9月の台風の概要と防災気象情報の活用のすすめ https://www.iriic.co.jp/risk_info/disaster/72.php ◆ 号外 台風18号による大雨などに係る被害と防災情報の概要について https://www.iriic.co.jp/risk_info/disaster/2015_sp01.php ◆ 第65号 台風による被害と企業の対策 https://www.iriic.co.jp/risk_info/disaster/65.php ◆ 第51号 台風による風災リスクおよびその対策 https://www.iriic.co.jp/risk_info/disaster/51.php
 強風 ・ 台風 ・ 高潮	

参考文献

- 1) 気象庁「台風情報」(2020年10月8日17:00最終閲覧) <https://www.ima.go.jp/jp/typh/>
- 2) 気象庁「天気図」(2020年10月8日17:00最終閲覧) <https://www.ima.go.jp/jp/g3/>
- 3) 国土交通省「重ねるハザードマップ」 <https://disaportal.gsi.go.jp/maps/>
- 4) 首相官邸「災害の「備え」チェックリスト」 <https://www.kantei.go.jp/jp/content/000064513.pdf>
- 5) 気象庁「防災気象情報とその効果的な利用」
https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/ame_chuui/ame_chuui_p8.html
- 6) 気象庁「指定河川洪水予報」 <https://www.ima.go.jp/jma/kishou/known/bosai/flood.html>
- 7) 気象庁「高潮」 <https://www.data.jma.go.jp/gmd/kaiyou/db/tide/known/tide/takashio.html>
- 8) 気象庁「沿岸波浪予想図」 <https://www.data.jma.go.jp/gmd/waveinf/chart/awjp.html>
- 9) 国土交通省「川の防災情報」 <https://www.river.go.jp/portal/#80>

本誌は、マスコミ報道など公開されている情報に基づいて作成しております。
また、本誌は、読者の方々に対して企業のリスク管理向上に役立てていただくことを目的としたものであり、事案そのものに対する批評その他を意図しているものではありません。

MS&ADインターリスク総研株式会社は、MS&AD インシュアランスグループに属する、リスクマネジメントについての調査研究及びコンサルティングに関する専門会社です。
災害や事故の防止を目的としたサーベイや各種コンサルティングを実施しております。
コンサルティングに関するお問い合わせ・お申込み等は、下記の弊社お問合せ先、またはあいおいニッセイ同和損保、三井住友海上の各社営業担当までお気軽にお寄せ下さい。

お問い合わせ先

MS&ADインターリスク総研株式会社 <https://www.irric.co.jp/>

リスクマネジメント第一部

東京都千代田区神田淡路町2-105 TEL:03-5296-8917/FAX:03-5296-8942

<自然災害リスクコンサルティングメニュー>

1. 自社物件の自然災害リスクを網羅的に把握したい
→ハザード情報調査
地震、津波、風水災等のハザード情報（ハザードマップ等）を収集・整理し、報告書にまとめて提供します。
2. ハザードマップでは不明瞭な自社物件の水災リスクを把握したい
→水災対策コンサルティング
河川の氾濫や局地的大雨を想定した水災シミュレーションをベースに、事業継続計画（BCP）の見直しを含む各種アドバイス・サービスを提供します。
3. 不動産証券化をするため、地震PMLを知りたい
→地震リスク評価
資料（建物構造、階数、保険金額、用途、建築年など）を基に地震発生時の予想最大被害額（PML）を算定し、報告書にまとめて提供します。

不許複製／Copyright MS&AD インターリスク総研 2020